

看護部だより

ひまわり



2017年10月
発行責任者 久保洋子

VoL.50

接遇研修報告

看護部 教育指導担当師長 久保 洋子

8月29日（火）に第1回“接遇研修”を開催しました。

講師に、株式会社ニチイ学館、医療関連事業本部の小澤久美子先生（元日本航空客室マネージャー）をお招きして、「信頼される病院になるために」というテーマのもと、看護師83名、他職種9名の合計92名の参加がありました。

接遇には、「心」と「形」が必要で、相手を思っているという気持ちを「形」で表現できるように、それぞれが行動することが大切であるとありました。また、言葉や視線、表情で相手に伝わる印象が大きく影響すること等、改めて学習できた研修だったと思います。今年度は、年間3回の接遇研修を計画しています。皆さんも、今一度、マナーブックを身近に活用し、医療職としてふさわしい接遇マナーを身につけて行きましょう。

院内研修報告

★トピックス研修★

『PNS研修』を終えて

回復リハビリ病棟 溝園

6月16日、小牧師長講師によるトピックス「PNS研修」がありました。今回の研修中で、カードを使用し「自分の良い点、悪い点について」自己紹介を行いました。自己紹介することで、改めて自己を見つめ直す機会になったと思います。

PNS看護方式が導入され4年経過しましたが、各病棟、残された課題があると思います。更なるPNS構築のために多角的視点やマネジメント力が必要だと感じました。



『看護診断研修』を終えて

4階東病棟 高原

5月23日に院内で看護診断についての研修がありました。講師は今村看護師です。

学生の時に看護診断について学び、その問題点について計画立案やアセスメントをしていました。入職してから問題点を挙げ、計画立案、評価と1週間に1回行っています。看護診断について学生の時の学びしかなく、今回の研修で変更点や共同問題はPC（潜在的な合併症）がRC（潜在的な危険）へ変わっている事、NANDAの改正点など学ぶことが多かったです。このような研修があることで最新の情報を得ることができるため、今後も積極的に参加していきたいです。



レベルⅠ『KYT研修』を受講して

講師：医療安全管理室 田口師長

今回、KYTについての研修を受けて、日々の環境整備の大切さや、患者さんが何気なく過ごしている環境には様々な危険が潜んでいるという事を学びました。1回目のグループワークでは、KYTの各段階について意見を交換しながら進めていく中で、自分だけでは考えられなかった意見も聞くことができ、複数人で危険因子に対する対策を考える事の重要性を感じました。

2回目の実践研修では、一度きりの環境整備で安全かどうかを判断するのではなく、常に危険な箇所はないか注意しながら患者周辺の環境を確認する必要があると学びました。

今後は、患者の身体面だけでなく、精神面・社会的背景・発達段階など、様々な視点から考えて、患者が安全・快適に過ごせるような環境調整を心掛けていきたいと思いました。

3階東病棟 坂元

今まで医療安全について「失敗しないように注意しなければならない」と考えていました。KYTのグループワークを通して、エラーを起こす可能性はどの場面にもあると考えながら、危険を予測し行動する事が大切であることが分かりました。自分は、忘れやすい傾向があるということを実感している為、普段からメモをとったりチェックリストを作ったりして対処しています。患者さんに安全に日常生活を行って貰うためには、知識と経験が必要不可欠になると思います。看護師としての経験が浅いため、先輩たちや他の人たちはどのようにして危険を回避するようにしているかを考えて、相談し実施していく必要があると思いました。また、目で見て、指差し・声出し確認を習慣化する事でインシデントの発生率が低下する事もわかりました。普段から意識してやっているが、恥ずかしさもあって声出しがなかなかできない事もありました、しかし、内服薬や注射薬の確認では患者の生命に関わるため、確実に実施してエラーを起こさないようにしていく必要があると学びました。

手術室 内野

倫理コースを受講して

レベルⅡ 4階東病棟東 宝来

みなさんは倫理について、どう考えますか。倫理と聞いて難しいイメージを思い浮かべる方が多いと思います。私もその中の一人でした。色々と調べていくと、「倫」とは人の輪・仲間、「理」とは模様・ことわりと示されており、合わせて「倫理」とは、仲間の間での決まり事・守るべき秩序と書かれていました。

私達、医療従事者は、色々な場面で倫理観に悩まされることが多いと思います。患者が思っている事と、家族が思っている事のどちらを優先すべきか・・・。多忙な業務の中で、いかに患者・家族の思いを尊重し対応していくことが大事である事を今回の研修で学ぶことができました。

今後多忙な業務の中でも、一度患者のもとに立ち止まり、ゆっくりとした気持ちの中で、患者・家族の話を傾聴し、思い・考えを看護師だけではなく、他職種間で情報共有し、医療チーム間で連携・協働し、患者・家族の思いを支え、より良い看護実践につなげていきたいです。

レベルⅠ「災害発生時の対応」 研修を受講して

手術室 川添

今回の研修で、災害発生時の医療現場では、状況が変化し、ライフラインや人材、医療資源も十分ではない中で、患者や状況に合わせた医療や看護の提供を行う必要があると感じました。また災害時には、自分の安全を確保しつつ患者や家族を安全に避難、誘導しなければならない為、普段から災害時の避難経路の確認や防災訓練の大切さを改めて感じました。

災害時に慌てることなく行動できるように、観察力やアセスメント力を身に付け、トリアージ区分を把握し適切に看護が行えるようにして行きたいと思っています。



レベルⅡ (グループワーク)

回復リハビリ病棟 吉原

今回、倫理の研修で「4分割法」について事例を通して学びました。4分割法とは、「医学的適応」「患者の意向」「周囲の状況」「QOL」の4つの視点について話し合い、チームで「患者にとっての最善とは何か」を考える手法であると学びました。実際に4分割法を使用し、事例を通して考えることで、様々な視点から全体を見ることができ、患者や家族の思い、身体的・社会的・精神的状況を捉え、問題点を導き出すことができました。

今回の学びを活かし、今後カンファレンスを行う時は、4分割法を意識しながら、患者にとっての最善は何かを考え、苦痛の軽減やQOLが向上できるように、患者・家族を支援していきたいと思っています。

レベルⅡ「リーダー論・リーダーシップ」 研修を受講して

回復リハビリ病棟 東

リーダーシップの役割について理解できていたようで理解できていない事に気付きました。グループワークでも、業務の手助けを行う人がよいリーダーシップを図れる人だという認識でいました。リーダーの役割とリーダーシップの違いについて学び直し、メンバーがこの人と一緒に仕事がしたいと思えるリーダーになりたいと思いました。

リーダーの役割を果たすための知識や実践能力がまだまだ不足している為、組織の目標達成へ向け何ができて、何ができないのか自分の課題をみつけ病棟全体を見渡し視野を広げられるように努めていきたいと思っています。

院外研修報告

新人研修「専門職としての第一歩」を受講して

今回の新人看護師研修では、専門職としての第一歩、看護師としての自覚と責任ある行動について、グループワークを通して話し合い、理解を深めた。看護師となり半年ほど経つが、これまでの体験を振り返り、悩みや課題を共有し、悩みを抱えながら看護をしているのは自分だけではないと気付くことができた。また、臨床の現場では悩むことの連続であるが、悩むことが成長に繋がるのだと研修を通して学び、日々、自分自身の行動を振り返り、内省することを忘れず、これでいいのかと問いかけてみることを習慣化していきたいと感じた。

4東病棟 田代

今回初めて看護協会の研修に参加しました。最初は、自己紹介から始まり知らない人ばかりで少し緊張もありましたが、困っている事や悩んでいることなどについて話し合っていくうちに打ち解けてきました。

今回の研修を通して、患者の権利について考える場面が多くありました。私はまだ、自分のことでいっぱいになり「看護ではなく業務」になることが多いです。しっかりと1人1人の患者と向き合い、嬉しいことや辛いことを共に分かち合えるように関わっていきたいと思います。知識も技術もまだまだ未熟で、先輩達にも患者さんにも迷惑をかけることが多いですが、自分のなりたいたい看護師像に近づけるように頑張ります。

4西病棟 高柳

「看護補助者の活用推進のための看護管理者研修」に参加して

4西病棟 西川

5月に行われた研修会へ参加し、講義やグループワークを通して、自部署での補助者の活用がきちんと行われているのか、振り返る良い機会になりました。どの施設も明確な基準がなく、各看護師の判断で仕事をお願いしている部分が多く、今後基準を作成し教育に活かしていきたいとの意見もきかれました。

看護師の方もきちんと役割を理解し、明確な基準の範囲で仕事を依頼していく必要があると感じます。お互いの役割をきちんと理解し、業務を円滑に行える様、今後、改善していく必要があると感じました。



「糖尿病重症化予防(フットケア)研修」に参加して

外来 奥 麻衣

7月13日から7月15日の3日間研修に参加させていただきました。

近年糖尿病患者の増加に伴い様々な合併症の発症を予防する事が重要な課題となっています。今回糖尿病患者の足病変の病態生理から治療に関する知識、足病変に対する評価方法、フットケア技術、セルフケア支援の支援方法などを学びました。印象に残ったのが他施設のスタッフとお互いの足の観察やケアを行ったことです。

普段足を人に見てもらおうということがないためお互い恥ずかしがりながらも観察をし、胼胝(タコ)がある人や外反母趾がある人など意外に気づいていなかった人もいて、改めて足の観察から習慣や生活が見えてくると学びました。足のケアを通して糖尿病患者のQOLの向上、足病変の予防に努めていきたいと思っています。

7/22「日本手術看護学会(九州地区)」に参加して

手術室 宮内

九州の各病院から14の演題と4つのポスターセッションがあり、その中の一つに「周術期外来を担当する手術室看護師のやりがいにつながる要因」という演題がありました。現在当手術室でも麻酔科受診に続き、術前外来へ取り組み始めていたため、手術に必要な情報だけでなく、患者を全人的に捉え、信頼関係の構築を図ることで個別性を捉えた看護計画の実施、情報共有を行う事で、より安全な医療の提供、自己のスキルアップ、やりがいへと繋がっているという内容がとても興味深いものでした。限られた時間の中で、少しでも質の高い看護の提供が出来る様努力していこうと思いました。

中学生職場体験

看護部 教育指導担当師長 久保 洋子

8月24日(木)にれいめい中学校(3名)、9月7日(木)に南中学校(3名)の職場体験が実施されました。初めての体験に緊張気味の学生さんも、病棟の患者さんとのコミュニケーションをはじめ、入浴介助や手洗い等の体験を通して、徐々に緊張も解れ、笑顔が増えていきました。普段、目にする事ができない病院の活動や役割を目にする事ができ、また、患者や看護師の笑顔に感動し、貴重な体験ができたと思感を述べていました。



ミニナラティブ

手術室 小浦

救急外来で夜勤を始めて10年が経ち、多くの救急の場面に遭遇しました。その中でも特に忘れられない、0歳児の救急場面での出来事と、そこに立ち会い考えたことを書きたいと思います。

その日の深夜過ぎたところで、隣にいる医師のもとに救急隊から連絡が入りました。医師が救急隊からの情報をメモしているところを覗き込むと、[0才 CPA]と、書かれていました。そのワードが強力で、何かの間違いだろうと思い医師に確認しながら、半信半疑で救急カートやその他の準備を始めました。救急車が到着すると、車内よりストレッチャーではなく、救急隊員に抱きかかえられた患児が救急外来に運ばれてきました。横には泣き崩れる母親もいらっしゃったのですが、声をかけることができないまま患児の対応に入りました。患児はすでに硬直が始まっており蘇生が厳しい状況でした。両親が救急外来に案内され、医師の説明を聞きながら死亡確認が行われました。何度も何度も子供の名前を叫ぶ母親の姿にただただ見守るだけで、その他の家族に椅子を用意するような気遣いも何も出来ませんでした。エンゼルケアの際、両親と一緒に最期のケアを行わないか同僚が提案してくれました。子供の死という今までに経験の無い出来事で戸惑いが多く、その提案を考えられなかった自分が恥ずかしくなりました。

子供に限らず、家族の突然の死に直面した遺族は激しく動揺するでしょう。その時に、亡くなった方と残された家族が積極的に関わられる環境を作ること看護の役割です。常に相手の気持ちに寄り添って看護・行動できるようにしたいと思います。

マイブーム

3階東病棟 東久保

私のマイブームは有機野菜です。きっかけは去年から貧血や扁桃炎など体調不良が続いていたので、花嫁修業もかねて、食生活を改善したいと思った事でした。最初は知識がほとんどなかったので、栄養士の友達に相談し、鹿児島市の地球畑というお店に連れて行ってもらいました。有機野菜は値段が高いイメージがあったのですが、意外と高くなく、味もおいしかったです。カフェも併設しているので、健康志向の人にはおすすめのお店です。また、普段の食材選びに関しては、スーパーの地産地消コーナーを見たり道の駅に行ったりしています。安価で新鮮で栄養価も高い旬の野菜があり生産者も分かるので安心できます。

食生活を改善して半年が経ちますが、最近は貧血も改善し体調がとてもいい為、改めて食事の大切さを実感しています。今年は野菜作りを少しでも手伝ったので、今後はもっと知識を深めて有機栽培での家庭菜園に挑戦してみたいと思います。



編集後記

つい最近まで真夏日に悩まされていたと思いきや、朝晩の涼しい風を心地よく感じる季節になってきました。

また、日本列島において、異常気象に悩まされ、多くの災害も発生しています。

院内・院外を問わず、防災・災害への関心を深め、又、体調を崩しやすい時期になってきますので、各人での体調管理に努めましょう。
(久保)

